

◆ 式 辞 ◆

寒い中にも着実に春の訪れが感じられる本日、平成22年度北海道札幌月寒高等学校59回卒業証書授与式を厳粛に挙げていくことは、卒業生はもとより、全ての在校生、教職員にとりまして大きな喜びとするところであります。

日頃より、本校教育推進にご理解とご支援をいただいております、PTA会長菊地浩市様、同窓会長井筒和幸様、後援会長永井亜美様を始め多数のご来賓の皆様には、時節柄大変お忙しいところご臨席を賜り心からお礼申し上げます。

また、ご列席のご家族の皆様にとりましても、ご子弟のご卒業は何物にも代え難く、感慨も一入のことと思います。如何なる困難な状況にあっても、深い愛情を持って慈しみ育てられましたことに対しまして心からの敬意と感謝を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました定時制課程22名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、働きながら学ぶ、すなわち勤労と修学の両立を目標に、日々精進を重ねた4年間だったと思います。疲れて眠いときや寒いときなど、その両立が辛くて挫けそうになったり、人間関係で自棄を起しそうになったり、挙句の果て退学を考えたりしたことも幾度となくあったのではないのでしょうか。しかし、自らに鞭打って学業に勤しみ、高等学校卒業の栄冠を克ち取った皆さんは輝くヒーローであり、卒業証書はそれを讃える勲章であります。勿論、卒業は家族や友人、職場の方々など、多くの人の支えによるということも忘れてはなりません。

卒業式はゴールであるとともに、将来の希望に胸膨らませ、決意も新たに走り出すスタートでもあります。皆さんが駆け出す社会に目を向けてみますと、猛暑や集中豪雨など過酷な異常気象が農業生産を妨げ、食料や資源の確保と価格高騰が景気低迷に拍車をかけ、さらに雇用の悪化や将来への不安といった暗雲が垂れ込めており、私たちの日々の生活に重くのしかかっています。

その厳しい現実を打ち破る鍵は、次代を担う皆さん一人ひとりの「生き方」に負うところが大きいと考えています。生き方、つまり現実の試練に立ち向かう姿勢として大切なのは、「誠実に生きる」ということであると思っています。その「誠実」とはどのようなことでしょうか？

ある高校生は、新聞の投書欄で『私は誠実にはほど遠い。でも、一つだけ真面目に続けていることがある。それは、週4回のコンビニのアルバイトだ。あきっぽくて続かない私が、びっくりするくらい頑張っている。先輩からも褒められる。高校に入ってからの私は自分でも変わったと思う。学校にも真面目に行くようになった。“誠実に生きる”とは“真面目に生きる”ことだけではないが、私にできる誠実とは何かを考え、自分なりの答えを出したい。』と述べていました。

私は、誠実とは嘘や偽りのない生活を送り、真面目に仕事に取り組む、そして約束を守り義務を果たすということであると考えています。社会の厳しい現実や試練を乗り越えるためには、このように誠実に生きることが何よりも大切です。皆さん一人ひとりに「誠実に生きる」ということを心から願い、卒業に当たっての饒の言葉とします。

むすびに、本日の輝かしい門出に当たり、ご家族並びにご来賓の皆様衷心より感謝を申し上げますとともに、卒業生22名が月定の誇りと関係の方々への感謝を忘れずに、新しい人生を誠実に生きていくことを祈念して、式辞とします。

平成23年3月1日

北海道札幌月寒高等学校長 玉利和弘